

第26回 くずう原人まつり



8月24・25日の両日、嘉多山公園において開催されました。

お祭りはひもと木の棒を使って火おこしに挑戦。原人ステージでの火おこしパフォーマンスでスタート。フリーステージでは、歌やダンスなどが披露され、わんぱく広場では、子どもたちが原人と同じくひもや棒を使い、汗だくになりながら火おこしに挑戦していました。

翌25日には「灼熱のサンシャインライブ」と題し、地元の児童・生徒などが出演し、さまざまな歌や踊りが披露されました。また、弓矢と丸太切り、火おこしのタイムを競う「原人チャレンジパーク」が行われ、出場者の白熱した戦いに観客からは大きな拍手が沸き起こっていました。

夕方には和太鼓による勇壮な演奏が行われ、会場を埋めた人たちは、終わりゆく夏を最後まで楽しんでいました。

いじめゼロ 田沼西中学校区さのまるサミット



8月23日田沼中央公民館で開催されました。

このサミットは地域ぐるみでいじめを

防ぐために企画され、中心となったのは田沼西中学校区の小・中学校8校の児童・生徒たち。会場にはそのほか学校評議員、PTA、地元町会長など約400人が集まりました。

サミットでは、各校の代表者がいじめ問題を解決するための取り組みを発表。この発表を基に、サミット宣言「わたしたちは、相手の気持ちを考え、自分がされていやなことは絶対にしません」を採択し、各校で実践していくことを誓いました。



Town Topics まちの話題

記念演劇の 公演に向けて

田中正造翁没後100年記念演劇「天地と共に～田中正造を生きる」の稽古が続いています。上演を1カ月後に控えた9月15日の稽古でも、出演者の皆さんが真剣に取り組んでいました。

この演劇は、水樹涼子さんの原作・脚本、河田園子さんの演出による、正造翁の妻・カツの視点で翁の生き方を描いた演劇で、さの演劇塾の皆さんを中心に、出演者130人以上というスケールの大きな舞台です。

演劇は10月12・13日に文化会館で上演され、入場にはチケットが必要です。詳細は、田中正造翁没後百年顕彰事業推進室 ☎(22)8832へお問い合わせください。



第6回救急フェア

9月7日、9月9日の「救急の日」にちなみ、市内のショッピングセンターで開催されました。



これは佐野地区広域消防組合の主催で行われ、当日は応急手当普及員の資格を有する女性消防団員の皆さんも参加。また、ブランドキャラクター「さのまる」が1日隊長に任命され、イベントの呼びかけを行いました。



会場では消防組合の職員と女性消防団員による心肺蘇生法の講習やAEDの実技講習が行われたほか、子どもたちが防火衣を身に着けての記念撮影会などが行われました。



すごい！すごい！
全国1位！！

左から関根一真くん、小竹理恩くん、
小島悠矢くん、小林直貴くん

8月22日まで名古屋市で開催された第40回全日本中学校陸上競技選手権大会で、男子4×100mリレーに出場した佐野北中陸上部が、見事優勝を勝ち取りました。

この大会2週間前の関東大会で、県中学新記録で優勝し、勢いに乗って挑んだ全国大会本番。さらにタイムを縮めた42秒91の記録は、同種目歴代2位タイの見事な記録です。

夏休みが終わり北中では優勝報告会が開かれ、ビデオを全校生徒で鑑賞し、アンカーの選手が優勝のゴールを決めた瞬間には、体育館全体が大きな拍手で包まれたそうです。

昨年は準決勝敗退ともう一步のところ悔しい思いをしたのを胸に、鯨監督のもと、今年の猛暑の中、猛練習を積んだことと思います。快挙を成し遂げた選手の皆さんに、大きな拍手をお送りします。(市民記者 永倉文子)

「広報さの」を起点とした挑戦



手話講座の様子

毎月1日・15日に発行される「広報さの」には、さまざまな情報が掲載されています。

わたしは古希を過ぎ、今まで経験してきた以外のものに触れてみたいと思い、昨年は福祉住環境コーディネーターの資格に挑戦しました。初めてのマークシートのテストで3級を取得できました(2級は×でした)。今年は佐野市社会福祉協議会主催の手話講習会に参加しています。

手話講習会では、講師の方から文字通りの手ほどきを受けながら、手話でのあいさつを教わったり、自分の名前を話せるようになりました。知らなかったことを知るのには本当に楽しいものです。昨年学んだこと・今年学んだことをもとに、来年はどんな出会いが待っているか、今からワクワクしています。

「虚心坦懐」(何のわだかまりもない平らかな)の心境で、新たなことに挑戦していきたいと思えます。ぜひ皆さんも「広報さの」のいろいろな情報の中から、新たな挑戦をしてみてください。(市民記者H・T)



悪臭を放つ虫をヘップリムシという

晩秋の頃になると、朝晩が冷え込み肌寒さを感じるようになります。昆虫も寒さに備えて、冬支度の準備に取りかかります。この頃、暖かさを求めて家の窓などに寄り集まる虫に亀虫がいます。体調は1.5cmくらい、色は茶褐色、体型は亀の甲(こも)に似ています。別名「臭亀(くさかめ)」ともいいます。触ったり踏みつけたりすると、強烈な悪臭を放つからです。方言ではヒラツカまたはヘップリムシなどといっています。

「冬に近づいて寒くなってきたらさあ、家(うち)中にヒラツカが入ってきてさあ。コナイダ(この間)うっかりしてフンジャブシチャツテ(踏みつぶしてしまつて)…。いや、クセーノクサクネーノツタラアリヤーシネー(耐えられるような並々の臭さではない)」
亀虫は、平たくて小さな亀の甲のような形をしているのでヒラカメ(平亀)、これがさらに変化してヒラツカといわれるようになりました。

悪臭を放つ虫を一般に「ヘップ(フ)リムシ」または「ヘコキムシ」といっているので、亀虫にはもう一つのヘップ(フ)リムシという方言があります。屁(へ)を放る虫という意味です。

湿った石の下とか草むらに、「ごみむし(芥虫)」といって、黒っぽい色をした昆虫が住んでいます。体型はヒラツカと違って長楕円形、触つたりすると肛門から悪臭を放つので、この虫もヘップリムシといえます。
(市民記者 森下喜一)

